

平成29年度 第1回 がん看護事例検討会 報告書

日時	平成29年6月6日(火) 17時45分～19時20分
開催施設 参加者数	金沢大学 2名 富山大学 10名 福井大学 8名 金沢医科大学 1名 石川県立看護大学 13名 小松市民病院 9名 公立能登総合病院 7名 国立病院機構金沢医療センター 7名 富山県立中央病院 4名 富山赤十字病院 4名 計 65名
テーマ	「高齢患者の治療選択について考える」
発表者	富山大学附属病院 竹本朋代
<p>【意見交換内容】 治療に対する患者の希望や医療者間の周知、治療の副作用・治療期間のICについて、疼痛コントロールや認知機能低下に対するアセスメントや本人・家族の思いの確認などについて質疑応答がされた。またチームの介入の程度についても意見交換された。</p> <p>【他施設からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完治を目指す医師と疼痛緩和を望む患者の思いがずれているのでそれを確認していく必要がある。 ・有害事象の出現レベルが治療の中止の基準に大きく影響するので、このことは他職種で検討する必要がある。医療者間での認識の共有が困難と感じる場面も現場では多々あるが、ガイドラインなど客観的な指標を基に多職種で治療の実施・中止を検討していくことがチーム医療のスタートではないか。 ・本人の治療に対する思いの背景を掘り下げることが大切である。 ・QOLが落ちていく本人を見て、家族はどう思っていたのか、支持療法が十分であるかについて、早期からのチーム介入が必要。多職種で目標を共有し、すり合わせる大切である。 	
ミニレクチャー	<p>テーマ:患者とその家族を抗がん剤曝露から守ろう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗がん剤曝露の基礎知識 2. 北陸3県の一般病院における抗がん剤曝露防止支援の実態調査